

# 2010年10月奄美大島豪雨災害における 災害特性と課題

神谷 大介<sup>1</sup>

<sup>1</sup>琉球大学

E-mail: [d-kamiya@tec.u-ryukyu.ac.jp](mailto:d-kamiya@tec.u-ryukyu.ac.jp)

2010年10月の奄美大島豪雨災害の被災地である奄美市住用町を対象に、現地調査、ヒアリング調査、アンケート調査より防災上の課題について整理を行った。役所でのヒアリング調査より、奄美大島では「水害」＝「台風」という認識が生まれていたこと、既往最大への対応を前提とした防災対策を講じていたことが、迅速な初期対応が出来なかった要因の1つであることを示した。また、集落調査より、交通や道路環境が避難の阻害要因となっている可能性があること、多くの方が非常に危険な状況で避難を行っていたこと、安全な避難場所が非常に少ないことを示した。これらより、民家の活用等も含めた集落毎の防災体制の構築が必要であることを示した。

キーワード：離島、豪雨災害、集落、観光